

家庭学習について

家庭学習について、1番大切なことは、家で机に向かう習慣をつけること、と考えます。そして、それは強制や義務からではなく、主体的・意欲的に机に向かおうとすることが理想です。小学校1年生の子どもたちは宿題が出ることをとても楽しみにしています。早く宿題を出してほしいとせがみます。けれども、学年が上がるにつれて宿題は億劫なものに成り下がります。これには様々な原因があると思いますが、反復練習の繰り返しなどによって宿題は無味乾燥なものとなり子どもが受け止めてしまうことも1つの原因ではないでしょうか。毎日の家庭学習の習慣をつける上で継続しやすいという点では、反復練習は取り組みやすいものでしょう。特に低学年では必要だと思えます。しかし、中学年、高学年となるにつれて子どもたちの知的な好奇心はぐんぐん増していきます。また、学力の差も生じます。そのなかで、低学年と同じように反復練習のみの宿題を出すのでは、満足できない児童も出てくると思えます。そればかりか、受身の姿勢で家庭学習に取り組むことが普通になってしまえば、机に向かうこと、すなわち学ぶことは与えられるものであり義務であると捉えてしまうのではないのでしょうか。これは、子どもたちにとって決してプラスとは言えないと思えます。

そこで、高学年を担当したときには、私は次のような宿題を出すようにしています。B5サイズの大学ノート見開き2ページが1日分の課題です。左ページにはその日の授業で学んでわかったことやそこから考えられる自分の意見・感想などを毎時間ごとに書きます。これを学習日録と呼んでいます。その学習日録の下には百人一首を一首、今年は書いています。毎朝、黒板に私がその日の一句を書いておくので、それを書き写すわけです。その横には私からのコメントです。毎日35人の子どもの学習日録と右の自由勉強を見てこちらから励ましやアドバイスを書きます。これがなかなか大変です。その日のうちに全員の分を見てその日のうちに返します。休み時間や給食の時間、音楽などの専科の時間を駆使してコメントをし、ノートを返すようにしています。毎日が、戦いです。時には、休み時間などにトラブルがあったりしてコメントできないときもありますが、できる日には心をこめて書くようにしています。この宿題の勝負はここにかかっているからです。

そして、右ページには反復練習と自由勉強です。私のクラスでは毎朝漢字と計算の小テストをしていますので、そのテスト調べにあたるドリルのページを練習してくるようにしています。そして、ノートの余ったところに自由勉強をします。その日の授業に関するもの、発展させたものが望ましいですが、その子の力に応じて、様々な段階の内容で認めるようにしています。反復練習の漢字から、苦手なものをもう少し書く、といったことから、何ページも使って体育で学習をしたことを振り返ったり、算数や社会で学習したことから発展させたり、新聞から関連記事を見つけたり、と様々です。けれど、反復練習の余白に何か学習をしていくことを、全員に課しています。その子の学力にあった内容でできるように幅を持たせられるのも、この課題の特徴だと思えます。

この家庭学習をするうえで、教師側のポイントは3つ挙げられます。

まず、一つ目のポイントは、毎日担任が学習日録をきちんと読み、自由勉強のがんばりを認めて、励ましやアドバイスなどのコメントを返すことです。学習日録は毎日文章を書きますので、だんだんと文章を書くことに慣れてくるといえるよさがあります。また、きらっと光

るような表現を文章のなかでする子もいます。それを欠かさずほめます。内容、書きぶりについて励まし、ほめ、また、その日学校生活であったことを思い出してほめます。全時間の日録を書くという子どもにとっては苦しいかもしれない課題を支えるのは、教師の生の声の励ましです。

二つ目のポイントは、良いノートを学級で共有することです。文章を書くのが苦手な子どもにとってはどんな文章を書いているのか分からない、という子もいます。また、自由勉強も自分のなかだけでは新しいアイデアが広がっていきません。定期的に良いノートをコピーして、全体の場でどこが優れているのかを教師が話します。がんばっている児童を評価し、その良さを全体に広めることで、互いに良い刺激を受けることができます。

三つ目のポイントは、知的好奇心をくすぐる授業を行うことです。子どもたちが主体的・意欲的に取り組めた授業では学習日録の文章も内容の濃さが格段にちがいます。逆に、受身になるような授業を私がしてしまったときには、その時間の日録は文章の内容が薄いのです。言い換えると、学習日録を読むことで、私は子どもたちからの授業の評価を受けていることになります。そして、1日に1時間でも子どもたちが満足できたと思われる授業のある日は、自由勉強は広がりがあり、多くの子どもたちが面白い自由勉強をしてきます。授業で学んだことをもっと追及したいと思うのです。これが、本来の家庭学習の理想だと私は考えます。意欲と主体性に満ちて調べてきたのだなああと想像しながらノートを見るときには、毎日のコメントのしんどさは吹き飛び、教師をやっていてよかったなああと、実感します。

けれど、なかなか家でやってこれなかったり、内容が充実しなかったりする児童もいます。だからといって、反復練習のみにしたり、授業の補充学習的な要素を取り入れたりと画一的な学習を課すことは、教師の怠慢だと考えます。様々な能力、家庭事情のなかで、子どもたち一人ひとりが学ぶことは楽しいと思えるようにするために、どうすればいいか、これからも考えていきたいと思えます。クラス全体を底上げするのは一朝一夕でできることではありませんが、根気強く取り組んでいきたいと思えます。

このように、学校での授業はもちろん、家庭学習でも主体的意欲的に取り組めるように働きかけていくことこそ、生きる力を育てることにつながると考えます。不思議に思うことを解決しようとか、知ったことをもっとくわしく知りたいと思って調べるとき、わたしたち大人も胸が躍ります。子どもたちはなおさらです。意欲と主体性のあふれた自由勉強ができたときの子どもたちのほこらしそうにノートを提出する表情、それに対してどんなコメントを返してくれるのかと待ちきれないようにノートをそっと開いて自分だけで見る様子、そんな姿がこれからも多く見られるように、そして学ぶ楽しさとともに実感できるように、この宿題をつづけていきたいと思っています。そして、それを支える毎日の学校での授業をよりよいものにしていくよう研鑽を積むことこそが私たち教師にとっては、何より大切なことだと思います。

2012.08.20.

家庭学習帳の例

○B5かA4の大学ノート

○月○日（○曜日）		自由勉強 1. 漢字・計算のテスト調べ 2. 復習 3. 発展学習 4. 何でもよい など ※とにかく1ページかく。 慣れてくると復習・予習・発展学習を入れる。 または、内容を指定する。
1		
2	教科名と授業内容と感想 1時間について、3行程度	
3		
4		
5		
6		
	今日の感想	先生への質問 先生へ言いたいこと

※必ず、その日に見て、コメントをかいて、返却する。

○漢字・計算ドリル

- 明日のテスト範囲を示す。→10問→その中から2～5問出す。
→○をつけて1時間目の休み時間に返却→その日のうちに直しをして提出
→次の日採点を記録して返却
- 遠足とか行事とかあっても必ずやる。